

平成 29 年度

事業所名：グループホーム もたい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社福伸		
事業所名	グループホームもたい		
所在地	奥州市前沢区生母字中道3番地2		
自己評価作成日	平成 30年 3月 15日	評価結果市町村受理日	4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念である「やさしいあいづち・こぼれる笑顔・感謝の言葉」を毎日朝唱和し、意識付けをし介護にあ
たっている。
・地域の幼稚園の折々の行事への参加を機会を持っている。
・安全管理の徹底に努めている(緊急時、災害時の連絡体制、避難訓練実践)
・すべての利用者様と会話をし、少なくとも1日1回は笑顔がみれるように、また職員も笑顔で仕事が終わ
るようにしている。
・重度化対応の体制をとり、看取りに関する職員研修を行っている。
・気持ちよく働ける職場を目指し、職員にコーチング研修を行っている。
・ホームページを使い、グループホームでの取り組みを公表している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.sokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani-true&ji_gyosyoCd=0391500055-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

農家が点在する平坦な田園地帯の農産物直売所や畜舎が見られる旧JA跡地に立地し、同一法人運
営のデイサービスセンターや指定居宅介護支援事業所が併設されている。「やさしいあいづち、こぼれる
笑顔・」を基本理念に掲げ、一人ひとりの思いに寄り添い、今出来る役割の分担や食卓の演出、レ
クリエーション等での関わりを通じ、みんなの笑顔が広がる暮らしを心掛けている。庭園でのバーベ
キュー開催や地区の祭りへの参加、幼稚園児や高校生の慰問などデイサービスセンターとの共催行
事も含め地域との交流行事を毎月計画し、暮らしのリズム感を大切に支援に努めている。利用者
や家族の願いに添うべくホームでの看取りも視野に医療・看護・関係機関との連携や職員体制、介護
スキルの向上を目指して研修・話し合いを重ねながら前進している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30年 3月 26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示しているだけではなく職員が意識するために、毎朝唱和し、ケアにおいて実践に努めている。	毎朝ミーティングで理念を唱和し、利用者のこぼれる笑顔が広がる日々の暮らしを目指して、信頼できる支援者としての自覚を再確認しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の産直に行ったり、地域の祭り等に(全員とは行かないが)参加し続けて接点を持つようにしている。「わからない」をするための「わら」の提供や、餅つきのための「杵と臼」の提供、協力をいただいている。またホームページを通じ、グループホームの取り組みを公表している。	地域の春祭り、秋祭りへの参加やボランティアの訪問、芋の子会開催、縄ないや餅つき行事では道具の提供を受けるなど、地域との付き合いが深められてきている。地域にとけ込んだホームを更に目指し、広報「もたいたよ見学会」では地域住民13名の来訪があり、好評を得ている。	地域交流を図りながら、運営方針「地域にとけ込んだ暮らし」を深めるように努めている。今後、町内会加入や夜間災害時見守り協力者の掘り起こしなども模索しながら、近隣住民のホーム行事参加声の掛け合い等、隣人との普段づきあいを更に深める工夫も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームが開設から10年を迎え、改めて地域の皆さんにホームを知っていただくために、地域にチラシを配り、見学会を開催した。2日間にわたり13名の参加があり、アンケートには「近くにこのような施設があり心強い」との記述があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に加え、市からの情報、地域の方からの質問、助言を現場に反映するようにしている。上述のグループホーム見学会開催も、運営推進委員会から出た意見が発端となった。	会議ではホームの実践状況を利用者の表情豊かな写真入り資料を用いて話題の提供や課題を投げかけ、委員から具体的な助言・提案がなされ、ホーム便りの発行や「もたい見学会」の実現に繋げている。委員も家族と共にバーベキューやクリスマス会に参加し利用者との対話の機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、助言、指導をいただいている。また施設行事にも参加していただき、現場を見て、ご家族からの意見、要望を伝えている。	市の担当者は運営推進会議委員として会議やホーム内行事にも参加し、その都度助言指導を得るとともに、市主催の研修会や会議に参加し関係法令改正や介護技術情報の提供を得るなど、話しやすい関係にあり、情報の共有も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修に参加し、日々の介護の中で、身体的行為(スピーチロック)等を説明し、話し合っている。	隣接デイサービスセンターと合同のサービス向上委員会を中心として、身体拘束関連研修参加報告や禁止行為の再確認、ヒヤリハット事例の教訓から事業所での対策を話し合い拘束のない支援に努めている。外出や帰宅願望の強い方とは寄り添いながら外出し、安全が危ぶまれる利用者は家族の了解のもとで介護ロボットやセンサーマットを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待となりそうな行為、暴言等には、その場で話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方を通し、制度を学ぶ機会が得られた。職員は理解し、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について時間をかけて十分に説明し、入所後わからない点については、その時点で説明にあたっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、電話等において、様子報告し、要望意見を聴いて反映させている。全職員が共有できるように、連絡ノートに記載している。	家族には毎月居室担当者が「たより」で日々の様子を知らせながら、面会時や電話で要望を聴いている。床屋に連れて行ってほしい等の個人的要望が多く、今後家族アンケートを行い要望や意見を更に把握したいとしている。利用者の意見等は、入浴や居室で聴く機会が多く外出や嗜好に関する要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護度が上がった利用者様用の入浴時のチェアの購入等、即対応している。代表者が毎月の職員会議に参加し、職員からの意見や提案を聴き、反映している。	代表者は毎月職員会議に参加し、備品の購入、更新や勤務体制等の提案を受け、入浴用チェアの購入、代替休暇等を具体化している。職員の気づきやスキル向上心を大切に、研修の機会を増やすなど「笑顔の広がるホーム」の運営に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が職員個々と面談をしている。話し合いながら目標を決め、達成するためにはどうしたらよいか、何ができるかを話し合っている。定期面談以外にも、必要に応じて面談を実施し、職場環境等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意見を取り入れながら、研修の機会を増やした。社外研修だけでなく、社内でも研修を企画し実施している。今年度社内講習会7回、社外講習会7回実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奥州市内のグループホーム協会に参加し交流している。他のグループホームと職員の交換研修を行っている。また、同会社(水沢区)の職員会議に参加し、質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行ったときに、本人の言葉、意向を聴き、アセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めていること、利用者様に対する想い、気持ちに配慮しながら、ケアの方向を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今」、本人が、一番何が必要としているかをサービスの中からニーズにあった支援につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で、出来ることを続けていただけるように努めている。テーブルを拭いたり、洗濯ものをたたんだり、料理の下ごしらえを手伝ったりと一緒に暮らしている関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、病院受診、月1回のお便りの中で、様子を伝えたり、相談したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚等が来訪されたときには、知り合い、いつも買物に行っていたお店への買物、いつもの美容院等に、連れていっていただき、声がけ等していただいている。	利用者は地元出身者が多く、初詣に出かけたりドライブで地域周辺の花見や産直に立ち寄ってソフトクリームを食べたりしている。医療機関受診帰りの外食や買い物をしている利用者もいて家族の協力も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶、レク等を通して、利用者同士の関わりに気を配り、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所したご家族から、グループホームに対して感謝の言葉が書かれたお礼の手紙をいただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、表情、態度から希望や要望を汲み取り、意向の把握に努めている。本人が自信を持って生活できるように支援している。	窓辺のソファでの寛ぎのひと時や入浴時に、何気ない会話や表情から思いをくみ取り、連絡ノートに記録し職員間で共有している。郷愁の念、日々の役割、昔話など、ほんの一言が、床モップがけの役割分担ややら細工、しめ縄づくり、周辺の散歩などに発展し、生活意欲とリズム感のある支援に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、話を伺っているが、毎日の生活の中でコミュニケーションをとりながら聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	最近出来ていたことが、今日は出来なかったりするので、その情報を職員全員で共有することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、常に利用者の「今、何がベストか」を考え、介護計画の作成にあたっている。	居室担当者が中心になって、ケース記録や連絡ノートを参考に、家族の意向を勘案しながら原案をつくり、定期的なモニタリングと併せカンファレンスで検討し計画作成担当者が作成している。毎月のケース検討会で常に利用者の現状に合わせた計画の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の様子を記入し、連絡ノートを活用し、全職員が情報共有、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、買物等のときに、本人、ご家族の状況や要望に応じて、代行し支援している。自施設独自サービスとして、洋服の「お直しサービス」や遠方で通院ができないご家族のための「通院サービス」を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り、保育園行事に参加できるときは、行く楽しみを感じていただけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医には、医療を継続して受けられるようにしている。協力医は、予防接種をお願いしている。4月以降ではあるが、歯科の協力医による歯科検診を実施予定。	入居前からのかかりつけ医を継続し家族が受診対応している。ホームでのバイタルや健康状況を記録した上申書を受診時に持参し、状況は医療機関、家族とも共有している。予防接種や緊急時には協力医に、日常健康管理は看護師の助言の下で利用者の安心できる受診と健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年11月より看護職員が配置された。日常での情報、気づき等は、看護師に報告し、相談したりし、適切な受診が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、グループホームでの情報(お便り)を送り、病院に出向き、状況を確認、関係者と情報交換し、退院後スムーズに元の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームにおける重度化対応に関する指針があり、職員も研修等に参加し利用者、家族への安心した継続支援に取り組んでいる。	法人として重度化対応や看取りの指針を作成し、関係事業所の協力もあるが、今まで看取りの経験はない。長期利用者や家族の意向を受け、看取りも視野に医療や訪問看護ステーションとの連携、職員研修を重ね、介護スキルの向上を図りながら利用者と家族の思いに添えるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の生活の中で、体の変化に応じて話し合いをし、また家族に連絡し、かかりつけ医に相談していただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導、自主訓練、夜間想定避難訓練を行っている。同会社(水沢区)の避難訓練に参加し、第三者の視点で動きを観察した結果を踏まえ、自施設の避難訓練に取り組んでいる。	火災想定避難訓練はデイサービスと合同で年2回実施し、職員1人体制時の夜間想定避難訓練にも取り組んでいる。ハザードマップを掲示し水害対策マニュアルを再確認のうえ、避難場所、避難誘導手段の見直しをしている。緊急通報装置を活用した職員連絡体制整備と招集訓練を計画している。非常食や日用品等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念「やさしいあいづち・こぼれる笑顔・感謝の言葉」を共有し、利用者同士の言葉のやりとりには仲良く入ったり、履いているズボンの乱れにはプライバシーを配慮したところに移動し、直している。	広報紙掲載や施設内掲示の写真利用は家族の同意を得ている。一人ひとりの個性を尊重した対応と、言葉遣いやトイレ利用時は必ずドアを閉めるなどプライドや羞恥心に配慮している。統合失調症ぎみの利用者への対応は特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が少人数でも、多人数でも一緒に話せるような雰囲気を作っている。また利用者様がどうしたいか、何をしたいかを聴く耳を持つように、援助に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時に、その日の体調によって、まだ眠りたいという希望がある場合は、考慮している。居室で過ごす時間が多い方は、無理にホールに連れてくることなく、希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、タオル、クシ等を準備しておき、自分で出来る方は整容をきちんと行っている。支援の必要な方には、お手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備(洗う、むく)を手伝っていただく。職員も同じものを食し、感想を話したりと会話しながら楽しんでいる。下膳も、自らカウンターに運んで来られる方もいる。	利用者の嗜好を取り入れ職員が交代で献立、調理し、皮むきの下ごしらえや下膳など全員が参加できるよう働きかけている。行事食や誕生日のケーキ、夏には庭先で流しソーメンやバーベキューをし、花見には仕出弁当を取るなど、雰囲気や目先を変えて楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が一目でわかる記録を用い、水分量が不足の方には、声がけし、援助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、すべての利用者様に口腔ケアを実施し、一人ひとりに応じた介助をしている。みがき残しのチェックを心がけている。夕食後は義歯を外し、洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックに記録し、それを元に、自らトイレに行かない人には声がけをし、排泄できるようにし、支援している。夜間帯離床しない人には、声がけし失禁を防ぎ、不快感が無いようにしている。	利用者の半数は布パンツを使用し自立しており日中は全員がトイレでの排泄としている。排泄記録を参考に夜間も声掛けしながら不快感のないような支援に努めているが、睡眠の深いときは良眠を優先にしている。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方されている薬以外に、水分摂取、軽体操、運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、一応決まっており、会話をしながら、楽しんでいただき、体の変化にも観察するように努めている。そのほか、汚染状況に応じ、入浴している。	入浴頻度は週2回程度、時間帯は午前とし、個浴で3人を目途にゆったりリラックスし、歌ったり話かけたりコミュニケーションが図られる大切な時間である。入浴を拒む人はなく、夜間の入浴希望者は足浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調により、臥床したりしている方もいるが、昼間は出来る限り活動し、夜ゆっくり就寝できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を常に見えるところにおき、職員全員が把握し、薬を間違いなく、服用するようにしている。処方の変更時には、よく観察し、その旨を通院時の上申書に記入し、かかりつけ医との連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リネン交換は、職員とともに利用者様にも行っていただき、コミュニケーションを取っている。利用者様それぞれの好みに合ったゲーム、歌等工夫している。また工作も多く取り入れている。オルガンも準備し、気分がのときは弾いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺は、田んぼ、畑が多く季節感が常に感じられるので、天気の良い日は、散歩を試みている。元朝参りに、近くの神社に行ったりしている。	天気の良い日は田園風景を眺めながら散歩に出かけたり、ウッドデッキでの日光浴で気分転換が図られるようにしている。四季折々にはドライブで花見や紅葉狩り、1月には神社に初詣に出かけている。家族には出来るだけ外出の協力を働きかけ、外食や法事に出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理している。ドライブ等で外食した場合には、おごづかいから支払いを行う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に手紙を送り、グループホームでの生活状況を、写真をいれて報告している。電話をかけたい方には、希望通りに電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に掃除を手伝っていただいたり、温度、湿度等の変化により、エアコン、加湿器等で調整を保っている。季節により花を飾り、絵を描いたり、作品を作ったりして、季節感を出している。	居間兼食堂は南に面し、窓外にはウッドデッキがある。日当たりが良く廊下の要所要所にソファが置かれ、利用者同士の語りや静かな時間を過ごす場になっている。壁面には季節感のある飾りや職員手書きの利用者の似顔絵が飾られている。温湿度の空調管理が行き届き、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに、テーブル以外にソファを2ヶ所に置き、1人になりたい時には、利用していただいている。また他の利用者との交流ができるように、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、普段着用していたり、持ち歩いていた物、家具、写真等を持参していただき、本人の不安を取り除くよう努めている。	居室はベッドやクローゼット、暖房、空気清浄器が備付られている。夫々にテレビやテーブル、籐椅子などを持ち込み、リースを飾っている利用者もいる。クローゼット空間は広く、ほとんどの日用品や着替が収納され、室内はすっきりと保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルに名前を記入したり、又、居室のところに名前を書いたりして目印をつけている。		